

幼稚園教育の普及策如何

東京女高師教授 藤井利譽

幼稚園教育が、もう一層普及せられなければならぬといふ事は明確な理論であつて又實際の方面から其必要も認められてゐるのであるが、現在我國の狀態を見ると其の普及の進歩はあまりに遅々たるものである。

私人の經營による私立幼稚園といふものも若しくは、これに類する施設は漸次多くなるようであるが、公共の幼稚園はその數の増加率が少ないように思はれる、それは、幼稚園教育がまだ國家的又社會的にその效果をみごめられて居ないといふ事に歸するものとせられる。今日、教育の施設は初等學校中等學校高等學校等にその機關多くかつ又完備しつつある、最近、義務教育の國庫負擔も解決せられ、學級の増加も各科の研究も諸府縣を通じて非常な勢力である。これに反して幼稚園の施設と園兒の増加は、今詳細な調査の結果を知る術もないが、そんなに増加しては居ない様である。幼稚園教育の進歩發達と

いふ事は理論の方からしても又事實の方面からも大いにその必要を認めながら斯様な狀態に置かれてあるといふ事は大いなる矛盾である、國家としても公共團體としても、もつと深刻に考へて此の解決の方法を取るべきであらふと思ふ。先に幼稚園協會が東京を中心として、幼稚園教育の普及とその實質の改善に關して宣傳したがその反響は可成強く非常に有效であつたと聞く、然し其の後幼稚園關係者及びこれに同情をよする識者は絶えずこの方面に活動してやまないであらふか如何か私はそれを知らない、ただかういふ事は一度や二度宣傳した丈でやむべきものではあるまいと思ふ、もつと深い處まで喰ひ込んだ大運動が行はれなければならない、理想を完結し理論を實際に現實せしめんが爲には最も大膽に最も前進的にしかも一時的でなく運動を續けなければならぬと思ふ。而して幼稚園教育發展を圖らんが爲には國家や公共團體も充分經濟的に力を添へて幼稚

園の經營完備を計るようになすべきである。幼稚園教育者又その關係者が、國家には金がないその上に内外共に多端な現在に於て國家が幼稚園事業を助くるに至らないのは當然である。早くもあきらめを付けて、かように實際からも理論からも必然の結果であつて明白なそして緊急なこの要求をせずには止むといふ事は、あまりにはがゆい様に感ぜられる。勿論國家の經綸は廣く、なすべき事業は複雑ではあらぶが、學齡前の兒童を教育するといふ事は、一時的の事ではない、その百年の大計の上から考へて、その基礎的な重大さから考へて少しも他の諸教育に異なる處はない、他の教育と同等の重要さと必要さとのある以上、これが經營に國家が費用を補けるといふ事はあまり當然の事ではあるまいか。故に幼稚園教育者自らが黙して手をひかへてゐるといふ事は間違てゐる、自ら進んでその要求の果されんが爲に目的の達せられんが爲に大いに力を致すべきであると思ふ。我國の現状はかようであるが廣く海外を見れば、各國共に學齡前の教育即ち、幼兒教育といふものには、國家はこれを初等教育の出發點として大に力を注ぎ、幼學年の研究、幼學級の改善を益々盛に

しつゝあつて、その教育の爲には相當に費用を支出してゐるのである、勿論、私は幼兒教育を義務教育の中に入れ國民の義務としようと考ふるのでは無いが、幼稚園教育なるものを國家的に考へてその要求が當然の必要と認る時には、これが爲に國家が力を盡すのは亦當然の事であると思ふ。國家自らが、各地方に模範的な幼稚園を造るとか又は公共團體をしてその設立をなさしめ或は保育者の養成機關を完備し、(それは現在の如き不完全なものでなく少くとも小學校教員養成と同程度丈にはしなければならぬと思ふ)なほ制度の上からして幼稚園教育をしてよる處を知らしめその赴く處を指示するものとして、法令の上にもその目的なり手段なりを明瞭にする必要があると思ふ。

一、二年前に全國幼稚園教育者の大會に於て幼稚園教育に關する法令の發布を決議したが以來今日まで殆ど之が實現はされさうにもないが、幼稚園教育者の多くは一度建議すれば事足れりとしてゐるのであらうか、幼稚園教育の國家的存在の意義を明かにする爲には法令の發布は大に重要な問題であるが其事の實現に就いて現在、どれ丈の努力がなされつゝ

あるのであらうか、等閑に附する如き事のないのは當然であるがなほいまだしき感じがするのである。

一體に集團的な會議などで決議せられた事が當座限りにせられて建議の實現や目的到達にまで至る事が少ない様に思ふ、既に大體に於ては形なり内容なりの出來てゐるものには云ふべきではないが、その形に於て内容に於て又社會的地位に於て微々たるとして不完全なる状態にあるこの幼稚園教育に於ては、その存在の理由の廣く認めらるゝ爲には他に比して非常なる努力を盡さねばならぬのである。

以上述べた様な理由から私は幼稚園の普及を一刻もゆるがせにすべからざるものと思ふのである。幼稚園教育の普及に對する熱烈なる運動の實行と、その結果として各方面から必要の緊急を認められ各地方にあまねくその設立を見るに至るといふ事は私には今は議論は過ぎて切實なる實際的要求である。

もはや理論の時代ではない、宣傳のみの時機でもない之が實行、實現の時である。その實行の爲には、幼兒教育者自らが奮起し絶えざる努力と精勵を致すより外はないと思ふ。自分の幼稚園が完全だといふ事に安んじて廣く國家的社會的の見地から思ふ

事なくば幼稚園教育はいつまでも此のまゝの状態であらふ。此處に大に幼兒教育者自ら勇猛奮勵してその普及の爲めその要求の實現の爲めに盡されんことを切望してやまないのである。(文責在記者)

我國に於ける幼稚園

こゝに掲げた保育學校は英國に於ける幼稚園完全運動の一と見られる。然らば我國に於ける幼稚園の現況は如何であるか。甚だしくその内容に於ても形式に於ても劣つてゐることを思はしめる。幼稚園は傳染病の巢窟であると言ひ、幼稚園を経て來た生徒は、小學校入校後訓練上困ると云はれるが如きは、いかに其衛生的注意に於て不備であり、精神的訓練に於て不完全であるかを語るものである。今我國に於ける幼稚園の状況に見るに、全國の幼稚園數は、六九五、園兒の數五萬八千七百九十四人であつて保姆の數は、二千六十七人である(大正十一年四月現在)園兒の數保姆一人宛二十七人である而して保姆無資格者が其五分の一に及んでゐる。園兒の數を多くする事はこの種教育の普及のために保姆の數を増加し、有資格者を増すことはこの事業の徹底のために必要であるが、全國に於ける保姆養成機關の完成をばかることは、これ等にも増して緊急なる肝要事であらうと思ふ。